

Ⅲ 年度評価

- (小項目別評価)
 A:計画を上回って実施(計画の達成度が100%超)
 B:計画どおりに実施(計画の達成度が90%以上)
 C:計画をやや下回る(計画の達成度が70%以上)
 D:計画を大幅に下回る(計画の達成度が70%未満)

評 定			小項目別評価				合計
			A	B	C	D	
項目別評価	教育研究	Ⅱ (計画どおり)	3	8	0	0	11
	管理運営	Ⅱ (計画どおり)	1	6	1	0	8
合 計			4	14	1	0	19

- (項目別評価)
 I : 計画を上回って実施
 (特に認める場合)
 II : 計画どおりに実施
 III : 計画をやや下回る
 IV : 計画を大幅に下回る

<小項目別評価>

教育研究等の質の向上に関する項目	
1 教育に関する措置	
(1) グローバル社会で活躍できる人材の育成	B
グローバルリーダー教育プログラムでは、少人数編成による英語教育の充実化を図り、国際商経学部グローバルビジネスコースでは、日本人学生向けに国内での8週間の英語集中講義と5週間の海外研修を着実に実施した。学生の海外派遣人数、留学生の受入人数は増加しているが、引き続き、全学のグローバル化を推進していく必要がある。	
(2) 地域のニーズに応える専門人材の育成	B
社会情報科学部では、PBL演習において、県内企業と連携して消費者購買履歴データを活用して店舗の売場改善を提案するなど、データを利活用した教育を推進している。また、看護学部では明石市の社会福祉協議会と連携して地域の高齢者向けの活動を実施し、地域住民から高評価を得るなど、地域の健康問題に対応できる専門人材の育成に取り組んでいる。	
(3) 高度な専門性を有する人材の育成	B
経済・経営系大学院及び理学系大学院については、文部科学省へ設置届出を行い、情報系大学院についても、専攻名の再考を踏まえて、改めて事前相談を行うなど、大学院改革を着実に進めている。また、国際商経学部グローバルビジネスコースの留学生確保や、国際学生寮及び情報科学研究棟の供用開始など、新学部の体制を整えた。	
(4) 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成	B
遠隔授業において、新たに「生命科学入門」を加え、全19科目を実施するなど、学生に多様な学修の機会を提供している。また、全学共通教育や副専攻プログラムにおいて、独立系大学院の教員が新学部の授業を担当するなど、学部と大学院の連携を推進している。	
(5) 人材育成に向けた教育システムの充実	B
大学入試において、Web出願方式を全学部的一般選抜に導入し、受験生の利便性向上を図った。附属学校では、新学習指導要領を踏まえた教育課程の検討を行うとともに、電子黒板等の導入など、ICT教育の環境整備を推進している。	
2 研究に関する措置	
(1) 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	A
高度産業科学技術研究所において、ウイルス感染等の多検体検査を短時間で行える超小型のマイクロ化学システムの試作を行うなど、先端研究を推進している。また、金属新素材の研究・開発を行う拠点として『金属新素材研究センター』を整備し、ひょうごメタルベルトコンソーシアムを立ち上げ、金属3D造形技術開発の進展に寄与している。	
(2) 地域資源を活用した研究の推進	B
自然・環境科学研究所では、特定鳥獣の個体数推定、被害防止、行動分析等の調査研究を進め、県の「特定鳥獣保護管理年度別事業実施計画」の施策立案の支援などに取り組んでいる。	
(3) 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進	B
減災や看護の研究では、理化学研究所との共同研究により開発した統合地震シミュレータを南海トラフ地震の被害予測に適用した研究や、淡路市と連携した保健戦略の検討などを推進している。	
3 社会貢献に関する措置	
(1) 未来社会を先導する産学官連携の推進	A
ニュースバルを活用し、次世代半導体用微細加工技術開発を行うなど、放射光の産業利用を促進している。また、産学連携・研究推進機構内に新たに人工知能研究教育センターを設置するなど、中小企業の人材育成に取り組んでいる。	
(2) 大学が有する資源の地域社会における活用	A
阪神・淡路大震災25年記念事業として「人を守る減災の科学」のフォーラムを開催し、防災・減災・災害支援に関する研究成果を広く社会に発信するとともに、自治体等と連携した地域連携事業の推進に取り組んでいる。	
(3) 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進	B
県内企業マッチングシステム等を活用した地元企業の情報提供、県内中小企業の経営者等の志を学ぶインターンシップ事業、学生が企業を訪問して体験する人材マッチング事業など、地元企業への理解を深める取組を推進している。	

自律的・効率的な管理運営体制の確立に関する項目	
1 戦略的経営の推進に関する措置	
(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築	B
学長と若手の女性研究者が、教育研究とライフワークを両立するための意見交換を行うなど、男女共同参画の推進に取り組んでいる。また、優れた取組を行った教員を表彰する教育活動教員表彰や研究活動教員表彰制度を導入し、教育研究活動の活性化を図っている。	
(2) 県立大学の魅力発信と知名度向上	B
大学案内2020や県立大学通信1460の発行、兵庫県東京県人会でのブースの出展、新学部開設記念シンポジウムの開催など、積極的な情報発信に努めた結果、県立大学の露出件数が中期計画の目標を大きく上回っている。	
(3) 教育研究基盤の計画的な新規投資	C
姫路工学キャンパスの立替について、第2号館建設予定地に想定以上の汚染土壌が発生したため、キャンパス整備全体に遅れが生じている。引き続き、県と連携し、計画的な整備の進捗に努める必要がある。	
2 効率的経営の推進に関する措置	
(1) 経営資源の重点配分	B
新学部の開設に伴い、神戸商科キャンパスに「国際交流・学生課」を設置するなど、事務局組織の見直しに適切に取り組んでいる。	
(2) 安全・快適な環境の計画的整備	B
施設整備管理計画に基づき、播磨理学キャンパスのヘリウム液化機一式の更新や神戸商科キャンパス学術情報館の空調設備の更新を行うなど、教育研究環境の改善を図っている。	
3 自律的経営の推進に関する措置	
(1) 財務運営の改善	A
「兵庫県立大学基金」では、募金目標を上回る1,100万円の寄付を獲得するとともに、「GBC留学生支援基金」では、多くの県内企業の協力を得て留学生のスタートアップ奨学金事業に充当するなど、基金の充実を図っている。	
(2) 自己点検・評価及び情報の提供	B
前年度の評価委員会からの指摘事項について、速やかに学内で共有して改善に向けた取組を進めている。また、「知の交流シンポジウム」等を開催し、研究成果の発信に取り組んでいる。	
(3) コンプライアンスの推進	B
年度内に全てのキャンパスにおいてBCPの策定を完了し、BCPに基づき新たに簡易トイレ、毛布、衛星携帯電話を配備するなど、安全管理体制を強化している。	